第１回「日本語大賞」

テーマ　「人と人とをつなぐ日本語」

小学生の部　優秀賞　受賞作品

「心にひびく『ありがとう』」

宮城県

仙台市立原町小学校　６年

渡辺　優太朗

東京書籍

心にひびく「ありがとう」

仙台市立原町小学校　六年
渡辺　優太朗

「ありがとう」

この言葉がぼくの、心の中に一番しみついている言葉です。みなさんは毎日のように使っていると思いますが、ぼくにとってはとても重い言葉です。

ぼくの家は母子家庭で、お母さんが朝から晩まで汗水たらして働いています。そんなお母さんを見て、ぼくは、

「手伝うよ」

と言って、いろいろな手伝いをします。

ぼくが一番得意なのは、せんたく。手洗いの時もあるけれど、たいていはせんたくきに、洗い物とせんざいを入れてスタート。洗い終ったら妹と二人で分担して干します。妹はズボンなどの大きい物をハンガーにかける役、その間にぼくは、くつ下や下着などの小物を干しています。そして、妹は手が届かないから、妹からハンガーを受けとってぼくがさおにかけます。ぼくにとってはほぼ毎日やっている手慣れた仕事です。その仕事が終ると、お母さんがニコニコ顔で、

「今日もせんたくありがとう」

と言ってくれます。その言葉が心の中にひびいて、ぼくはとてもうれしくなります。それで心の中で、

（お母さんがぼくと妹のために、ぼくたちの百倍以上も働いてくれているから、ありがとうを言いたいのは、ぼくたちなのに）

と、いつも思います。

ぼくは、三年と四年の時に気持ちが不安定になり、つまらないことで怒ったりケンカをしたりして、少しみんなからさけられた時期がありました。自分で自分の気持ちがわからず、どうしてすぐ怒ってしまうんだろう、と後悔していました。みんなからさけられていて、悲しい気持ちでいっぱいでした。そんな時に、近くの友達の落したえんぴつをひろったら、

「ありがとう」

と言ってくれました。その一言で、なぜか心があたたかくなりました。その言葉で友達と心がつながったような気がしました。

「ありがとう」という言葉の大切さや重さ。ぼくは、お母さんや友達のやさしい心で知りました。それは、ただ感謝を伝えるだけでなく、人と人をやさしさでつなぐ言葉だと思います。ぼくはこれから、自分がもらった「ありがとう」を、さらにたくさんの人に心をこめて返していきたいと思います。